



グループ討論&講演

みんなでつくろう みんなの図書館

～中央図書館建替えと堺区図書館づくり～



みんなでつくろうつええまち堺市民100人委員会編
二〇二五年六月
市政レポート第十九号





市民 1000 人委員会は 2025 年 5 月 18 日(土)13 時 30 分～16 時 15 分、堺市産業振興センターで「第 16 回市政チェック学習会」を開きました。参加者は 66 名でした。堺市図書館協議会委員長の中川幾郎さんからご講演を頂きました。衆議院議員・森山浩行さん、堺市元副市長・高橋保さん、堺市議会議員・長谷川俊英さん、同・瀧上猛志さん、住みよい堺市をつくる会事務局長・丹野優さんにご出席頂きました。そのご報告を『市政レポート第 19 号』としてお届けします。

司会は、杉山美紀さん（市民 1000 人委員会事務局）でした。

次回「第 17 回市政チェック学習会」は、8 月 3 日(日)13 時 30 分～15 時 30 分、堺市東文化会館で『〇月〇日、区長になる女』上映会と引き続き 15 時 30 分～16 時 15 分感想シェア会として開催する予定です。



も く じ

< 図書館に寄せる想い >	笑福亭竹林さん	2
< 問題提起 >	中央図書館づくりと堺区図書館（区館）を考える	3
	巽 照子さん（堺市の図書館を考える会）	
< グループ討論の発表 >	< グループ討論で付箋に書かれたこと >	7
< 講演 >	市民と共に育ち、市民と図書館員が共同して創り上げる図書館	12
	中川 幾郎さん（堺市図書館協議会委員長）	
< クエスチョンタイム：市議に聞く >		22
< 市民運動報告 >		24
	* 6/15『ホームレスを生きる女たち』上映会	小堀 直子さん
	* 6/28「能登⇄堺 心をつなぐつどい」	田中 晋一さん
	* 路線バス減便の回復を求める署名にご協力を	吉村 薫さん
< 閉会あいさつ >	巽 照子さん（市民1000人委員会事務局）	30
< 第 6 期会計報告 >	2024/5/1～2025/4/30	

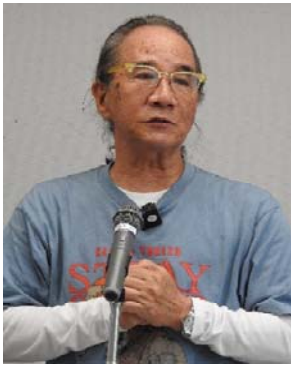
市民 1000 人委員会のホームページを開設しました。ご活用ください。

<https://shimin1000.com>



図書館に寄せる想い

笑福亭竹林さん（堺市図書館協議会委員）



実は図書館というところと全く縁なく歳を取りまして、生まれ育ちましたのが山奥やったもんですから、図書館もない、もちろん本屋さんもないっていうところでしたんで。本読むきっかけになったのは、この本読む環境にないことが良かったのかなと思います。

親父が街に出かけると、本を土産に買ってきてくれるんですよ。これがスペシャルなものでね、僕にとっては。ものすごく嬉しかった。最初は図鑑ですよ。動物図鑑、昆虫図鑑、魚類図鑑、これが、ものすごく嬉しかったんです。そのうち字のいっぱい書いてあるものになってきてね、子どもの頃ですから、『15 少年漂流記』なんてワクワクしながら読みました。その後、伝記になりますね。シュバイツァーとか野口英世とかになってくるんです。そんなことがきっかけで本を読む習慣がついたのかなと思います。

一時も活字がなかったら、電車の一駅が過ぎさへんぐらいの、なんか読んでいたいという時期がありました。ただ、本を読むことで何があったのかというと、健全な想像力と真っ当な判断力がついたかなって思ってます。健全な想像力です。だから時々エッチなことも想像したりしますけども、ただ、それが落語家になって、ちょっとしゃべることのお助けにもなったのかなというふうにも思います。

ただ、依然として図書館とは縁ないんです。いつ僕は図書館と縁ができたかって言ったら、ものすごい情けない話をします。エアコンが壊れて、数年間エアコンのない生活をしました。夜は何とか過ごせるんですけど、昼間はとても家にいてられへんのですよ。図書館がうってつけやったんですよ。涼しいし、長時間退屈せずに過ごせるということで、そこで初めて 40 半ばで図書館との縁ができました。

そんな僕が 2、3 年前、子ども会から行ってこいって言われて、堺市図書館協議会委員というのになりました。子ども会との付き合いはもう 30 年になります。それぞれの子どもたちには楽しいことを楽しい経験をさせてあげたいなというふうに思っています。いやいや、もっと言えば子どもって楽しいことさえしてたらいいんや、とさえ思っています。

ただ、子どもは、あるいは人間は、楽しいことのために努力します。学びます、忍耐します、みんなで楽しくなるために力を合わせますし、自分の楽しいことを追求していく上で他人と共有できるようになることこそ社会性やって、そんなふうに思っています。

図書館協議会委員の仲間に加えていただいたので、皆さんと一緒にこれからお勉強をさせていただくところではありますけれども、子どもたちにとって図書館が、本が楽しいものであってほしいと思うし子どもたちにとって図書館が楽しいところであってほしいなって、そんなことを思いながら過ごしています。

今日の勉強会は、皆さん、図書館にとって楽しい図書館を作るためにって有意義なものになるように心から願っております。

<問題提起> 中央図書館づくりと堺区図書館（区館）を考える

巽 照子さん（堺市の図書館を考える会）

皆様、こんにちは。お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。私は堺市の図書館を考える会に所属しています。この会は50年近く活動しています。議会等で中央図書館を建て替え、堺区の図書館を作る動きが出ていますので、図書館についてみんなで考えたいと思っています。



図書館ってそもそも何のためにあるのか

日本国憲法に基づく教育基本法、社会教育法、図書館法にそって図書館が作られています。

図書館とは、自分の考え、どう生きるかを自分で決める、それぞれの皆さんの人生をより豊かに生きるために学びたいことを学び、知りたいことを知るための文化的施設です。それを実現するのが役割です。

そのためには、やはり情報や資料があり、その情報について知識をもち、市民や利用者をつなぐ、サポートできる専門的な職員、司書がいることがとても大事です。

フィンランドの図書館 公共の場所として

私は十数年前に若い職員と一緒に、フィンランドという小さな国の図書館見学ツアーに行ってきました。多国籍の職員がいて、それぞれの利用者に対応しています。

フィンランドの図書館は、市民のリビングルームと呼ばれており、約50%の国民がほぼ1か月に1回、20%の人が週1回利用しています。とても読書好きな国民です。

タクシー運転手の方に「図書館を利用していますか」とお聞きしたら、「もちろんですよ。週1回は家族と一緒に図書館に行っているいろいろな楽しみを、子どもはゲームする時もあるし、私たちもおしゃべりをする時もあるし、いろんな形で利用している」とおっしゃっていました。生活に根付いていると改めて感じました。

最近、日本で話題なのが石川県立図書館です。金沢に行かれたら覗いてみて下さい。建物は立派



50万人の人口に対して、年間2000万冊の本(資料)の購入。市民1人当たり4冊(7300円)の購入。年間に貸出数は8500万点。国民1人当たり15冊。853の公共図書館。

2018年に開館したヘルシンキ中央図書館が斬新な建築と優れた設備で話題

その名もBook Heaven(本の天国)と名付けられた最上階のスペースは、陽の光が360度から入り込み、明るくとても開放的なスペースとなっています。10万冊以上の蔵書が並び、約20ヶ国語で書かれた書籍のほか、他の図書館では扱っていない種類の雑誌や映画、楽譜があります。



で色んな工夫もされています。ところがタクシー運転手さんに「図書館利用していますか」と聞いたら「全国から図書館に見学に来るので、どんな所かに行ってみただけでも、わしらと関係ないな」と言っていました。フィンランドとの違いがありました。貸出しカウンターがなく、職員が利用者の前にちゃんといないのです。30万冊もの本が開架されているのに、どこに何があるかが、慣れないと分からない。フ

ィンランド図書館では、20カ国語で書かれた約10万冊を並べていますが、市民一人一人がゆつたりとコミュニケーションが取れるように動いています。

駅前地域図書館では、職員ではない人が閲覧席を並べているのです。職員さんに聞いたら「これからミニコンサートを開きます。閲覧室の中にピアノが置かれていて、その周りで小さなコンサートを開くので、私たち職員はそれを見守っているだけで、市民の方々が申し入れをして頂いた時には、こういう形で開館中も演奏会を開いているんですよ」とおっしゃっていました。とても自由だと思いました。

子どもの本やキッズスペースもあり、思い思いの所で楽しむことができます。（前頁の）写真では、赤ちゃんを含めて色んな方が集う様子が見えます。市民の声に耳を傾け、市民が求める公共の場であろうとする努力を常にしているということが窺われます。

堺市立中央図書館 どんな機能が必要か

さて、私たちの街の堺の図書館は110年の歴史があります。1972年に私は中央図書館に入り、

堺市立中央図書館どんな機能が必要か

1、図書館システムの中枢機能

・全館と移動図書館が一体となって、市民に充実した図書館サービスを提供
・庶務、予算管理、広報、企画、資料を一元運用するための図書等の運送業務、図書館情報ネットワークシステムの管理、他都市連携
・読書環境整備事業（子ども・高齢者・外国人・障がい者）サービス等のアウトリーチサービス
・市長部局、教育委員会、堺市健康福祉プラザ視聴覚ライブラリー、病院等々のネットワーク、
・学校連携・学校図書館支援の拠点
・地域図書館のサービスのバックアップ
・電子書籍やデジタルアーカイブ等、図書館の開館時間に関わらず、インターネットを通じて自宅や職場から利用可能な、非来館型サービスの維持管理

・図書館が育ち、人が育ち 相互に成長する

——自治を担う「人」が育つことが重要である

りできるので、図書館は要らないのではないかという方もいるかもしれませんが、やはり人が学び成長するためには、活字文化を大事にしないとイケないと思っています。

今の中央図書館は8万5千冊ですが、30万冊の開架閲覧室を設けたい。新聞・雑誌も予算が削られて今は大変少ない状況です。そしてその資料をちゃんと提供し案内する専門の司書集団がいることが大事です。もちろん専門職司書館長の配置を継続してほしい。



幸せにするヒントがフィンランドからの学びにある。

市民一人一人のゆったりとした、そして充分なコミュニケーションが基礎にあって、社会が動いている。

- ▶そして一人一人が大切にされ、「居場所」のある社会づくり
- ▶子供用の本やキッズスペースもあり、訪れる者が思い思いの過ごし方を楽しむことができます。
- ▶テラスから眺める首都ヘルシンキの景色も、あまり高い建物がない街なので、訪れる者に新鮮な表情を見せてくれます。
- ▶福祉と自由・平等が生み出す豊かな教育
- ▶図書館と社会 相互に育つ

しく、今から7～8年後の建て替えに向けた「基本構想」が市役所内部でも検討されており、議会でも取り上げられていますが、市民にはなかなかその姿が見えて来ていません。

中央図書館は82万市民を支える中心的な役割ですから、図書館が育ち、人が育ち、相互に成長する場として運営されていくことが望まれます。今では電子図書があつたりインターネットで調べたり

2、資料の収集・提供機能

・一般資料（年間の約7万点出版点数、何パーセントを収集するか）

- ・30万冊の開架閲覧室（現在所蔵冊43万冊開架85000冊）
- ・郷土資料、地域資料（開架21000冊）
- ・新聞→100誌（現在12誌）
- ・雑誌→1000誌（現在全館628誌、中央図書館76誌）
- ・子どもの本→6万冊（現在2万8千冊）
- ・電子書籍・CD・DVDといった多様な種類の資料収集

○効率的に運営管理するシステム

正規司書がカウンターに常駐し、市民サービスする

・経験がある専門職司書館長の配置、司書集団で運営する

堺には皆さんもご存知の郷土の出身者たくさんいますが、郷土資料や地域資料は充実しており、地域資料の担当者が専任で、私が務めていた時には3人の正規職員が担当していました。今でも2人の正規と1人の非正規の職員ですが、きちんとした専任です。戦争時にも書庫が守られて焼けなかったのです。その資料も電子化していく中で、引き継いでいってほしいと思います。

しかし、今の図書館は狭い。大人スペースも子どもスペースもゆったりとした空間が欲しい。

30万冊の本棚といましたが、毎年およそ7万点の新书出版の中から、毎年新たな本を購入し、書架全体を新鮮に保つことが大切です。それにふさわしい計画をつくるのが司書の大事な力です。

保存機能で郷土資料はそれぞれの自治体が責任を持つ。一般書については、府立図書館と共同にしながら保存していく事も大切です。

5、資料保存機能

☆書庫のあり方

- ・人生100年の時代、資料の保存→200万冊
- ・閉架書庫→貴重資料等
- ・開架書庫をつくる。→図書、行政資料、新聞、雑誌のバックナンバー等市民が直接閲覧できる
- ・大阪府立図書館との連携で堺市立図書館の保存を考える
- ・地域図書館の書庫

利用者が中に入れる「開架書庫」も作ってほしい、バックナンバーや関連の資料を確かめたい時に、書庫に入れたら楽しいと思います。千葉県浦安市図書館は全部入るんです。美原町図書館は合併前は開

架書庫でした。

また演奏会や市民活動の場所も欲しい。図書館は、一人一人が知りたいものを知るためにを借りる場所でもあるけれども、人と人が集い、発表する公民館的な場でもあります。学習をする、本物に触れる、講演会やコンサート、原画展や写真展、ものづくり展、作品展などを催してほしいと思っています。

- 3、効率的にゆったりとした空間運営、
 - ・カウンターの数と 司書の配置
 - ・一般(成人)スペース・子どもスペース・閲覧席
- 4、レファレンスのバックアップ機能
 - ・市民の調査、研究や情報収集、課題解決の拠点として調査研コーナー
 - ・商用データーベースなど外部データーベース
 - ・Wi-Fi環境や研究個室、パソコン専用席などの環境整備



6、集会機能、展示スペース

- ・人と人の出会いの場づくり
- ・まちづくり、地域づくり→部屋やスペースがある
- ・学び、集い、つくる(演奏する)→発表する等々の場
- ・ゆっくり、ほっとひとときする場→喫茶コーナー等
- ・本物にふれる→講演会、コンサート、原画展、写真展、ものづくり展等々
- ・市民・ボランティア活動の場をつくる

堺区図書館の新設、そしてもっと地域に図書館を

7 地域図書館の機能

地域館、分館、分室、図書施設

堺区に地域図書館を考える

- ・各区に1館の地域図書館と堺区4分館1分室、西区5分館 北区4分館、中区3分館、東区2分館1分室、南区5分館2分室(1986年答申より)
- ・それぞれの区の歴史・文化を継承し、地域の課題を把握し、より良い暮らし、まちづくりのための図書館運営を行う

8、移動図書館

- ・宅配サービス

中央図書館が堺区内にあるために堺区の図書館はないのです。今回検討されている基本構想の議論では、堺区図書館機能を切り離す話が出ています。堺区以外でももっと地域図書館が欲しい。1986年の答申には、中学校区に1館ぐらゐの図書館づくりの構想がありましたが、進んでいません。移動図書館を含む豊かさが必要です。

絵本の表紙を見せている熊取町図書館

堺区の図書館をつくる会で、熊取町図書館見学に行きました。これは絵本架です。表紙が全部見せてありました。大人の本でも表紙を見せると、手にとってみようとなります。特に絵本は、子ども自身が表紙を見て決めることも多いし、大人が読んであげる本を選ぶときにも、画家の絵に引き付けられることがあります。こういう書架を豊富に持っているのは大阪府下でも日本でも熊取しかないのではないかと思います。30年経っている図書館ですが、美しくて選びやすい状況が続いています。



9、開館時間

- ・生活動線、生活時間に対応したサービス時間を考える

10、図書館は、地域社会やコミュニティーの核をなすもの。

住民のライフサイクル全体を通して福祉(人それぞれは幸せになるために図書館をどう使いこなすか)の増進を図り、社会・経済活動を営む基盤をつくるもの。
その意味では自治体の仕事の根幹をなす。

住民の暮らしや地域の実態、個性、将来をよく見据えて住民参加で行うべきです。
何に予算を使うのか、自治体の本来的な役割、政策選択も含めて考えるべきである。

生活時間に対応した開館時間／地域やコミュニティの核をなす図書館

また人々の生活時間に対応した開館時間も獲得しなければなりませんし、地域の人々の意向が反映された図書館でなければなりません。

指定管理者導入で大混乱の大阪市立中央図書館

今、大阪市図書館が従来と異なる業者にカウンター業務を委託するようになり、大変混乱しています。今回の委託先は、本の並べ方も知らないようです。

やはり図書館は、同質のサービスが維持できるよう、自治体の直営でなければならないのです。こんなことに堺市がならないように、市民が見張ること大事です。

大阪市立中央図書館の混乱から

指定管理者制度の導入 ～最大の問題点～

- 人の問題 □ 非正規採用、低賃金、長時間労働などいわゆる官制ワーキング プアを生み出す
- 3～5年間という期間での成果が求められる
- 短期間での人の入れ替わりも激しい
- 中長期的展望に立った計画の策定や、その進行管理、評価などを行うことは、極めて難しい
- 司書の採用が減る中で、司書に情熱を持った人材が、このような形で消費されていくのは大きな損失
- 図書館と地域の団体や学校、企業、個人などが連携したり協働したりする場合、ビジョンの共鳴や信頼の構築が必要
- 自治体内に図書館運営に精通した職員がいなくなる
こうならないように市民の目で見はる

・図書館の基本姿勢で大切なこと

1つ直営であること。教育委員会所管

- ・「図書館法」「文字・活字文化振興法」「子ども読書活動の推進に関する法律」に定められた基本理念をもとに、市民が文化的でうまいのある生活を営むための情報や資料を提供
- ・また、地域の未来の発展に資するため、伝統と文化を受け継ぐ情報資産を蓄積、保存し、次世代に承継するという使命を担っており、地域に関する情報を積極的に収集、提供。

2つ正規の専門職司書集団による運営。

規模の拡充と機能の充実に対応できる専門職員の増員 図書館は生活基盤を支える重要な機能の一つであり、その機能を十分に活かすためには、準備段階から運営に必要となる十分な人員の確保と専門職員の養成が不可欠となる。

3つ目は市民一人ひとりに届く資料(予算)

すべてのひとに知る権利を保障し、豊かな暮らしの実現を支援。
市民一人当たり300円がほしい。

図書館運営を支えるのは職員であること、長く働き続ける正規の職員であること、予算が保障されることです。これからの中央図書館、今どんな状況かわからないので、私たちの今日のグループ討議をしながら、こんな図書館が欲しいよということをみんなで考えて、みんなで作っていったらいいかなと思います。

よろしくお願いいたします。

これからの活動

- ・「図書館とは何か」
- ・「私たちの望ましい中央図書館」等学習会を開催しましょう。
- ・市民と図書館職員(司書)で話し合いたい。
- ・話題になっている図書館を見学しましょう。

・「みんなでつくろう みんなの図書館」

【グループ討論の発表】

利用していない人が多かったです。遠い、行ったけれど本が少ない、職員とコミュニケーションを取りたいのに忙しいのかツンとしている／どんな図書館がほしいか。身近な交通の便のいいところにほしい、探しやすい本の並べ方、今の中央図書館のように知らない人と並んだり対面になったりではなくて、一人一人がゆったりと座れるようなスペースと椅子を用意してほしい、外国の方と交流が今後あるのでその対応をきっちりできる下地作り、コーヒーを飲みながら本を読みたい、子どもたちのためには学校図書館との関係もちゃんとやっていける図書館作りをという意見が出ていました。今はもう本は自分で買い残念ですが図書館に行かないと、やはり現状は地域図書館の数が少ないと思いました。



同じく利用されていないという方が多かったです。館内が狭い、使いにくい、空調管理が足りない、古い本が多い、人気本は予約しても1ヶ月くらい40人とか100人待ちとか。図書館からの今週のお薦めという形で働きかけがあればとも。日頃の動線上に図書館がない、休日にわざわざ図書館に出かける気にならないと／どういう図書館にしたいか。森の図書館、子どもの遊び場やカフェを併設、広い駐車場、パスの便が多い、学生や子どもから利用しやすい、市直営で運営を、南区は各駅に図書館があるように、小さなスペースでは色んな所に地域図書館があれば使いやすとの意見も出ました。

ほぼ図書館で本を読んでいるという方とほとんど行かない方がいました。遠いのでなかなか行けない。仕事で行く時間がない。本が古い。新刊や話題本は順番待ちで待ちきれずメルカリで買って売る。伊丹市「ことば蔵」図書館では、皆が意識を持って市民が利用できるように市民が月一回のイベントを運営している。市民運動がもっと図書館に関わっていく必要がある、映画『ニューヨーク公共図書館』では、本だけでなく人と出会って、図書館が生きる希望になっていて、文化の中心の図書館をしっかりと利用できる市民の文化性が描かれている。街の本屋がすごく減り、本と出会う場所が本当に少なくなっている中で、利用しやすい図書館が本当に必要です。



図書館を利用されている方もいると共に、読みたい本は予約がいっぱいで手に入らず結局買ってしまう、古い本が多く買って読むという方も。南図書館利用の方が、落ち着いているが暗いので明るいといいな、駅から近いけれど返却は駅にポストがあればいいというお話も。ゆったりとしたスペースがあるといい。グループで色々話したりできる場がほしい、本を読むだけでなくホッとできるというといいなどの意見も。いろいろな雑誌を読みたいのに予算の関係で種類がどんどん減っている、結局買ってしまった、インターネットを利用した方が便利だという意見もありました。

図書館は無料で本が借りられ読める場所、市民の文化拠点の意義は大きいですが、行きづらい、堺市の図書購入予算が非常に少なく、本が汚い、希望の本がない。指定管理制度で、出先職員は本の検索をしてくれない。西区図書館では2階を子ども専用フロアに設定されて利用しやすいとも／今後の希望は、中央図書館は堺の文化と歴史を育んだ伝統的な図書館であって大切にすべき、堺の文化が集まる場所、市民のロビーになってほしいと。「有志のみんなの森」という図書館は、子どもだけとか学生だけとか大人だけとかではなく、多様な市民が集まれ、どの市民も「この場所いいね」と思える場所がいくつも設定をされ、しかも本を読んだり借りたりするだけではなく、その場所でコミュニケーション



ができ、その場そのものが教育の場になっている、図書館は人が大事なので、指定管理は避けたい。専門職として非常に重要な司書を守ることが非常に重要なことではないか。



こちらでは、図書館司書をやっておられた方、大阪中央図書館が近い方、お仕事で資料を取り寄せておられた方、色んな方がいらっしゃいました。大阪中央図書館は予約しても連絡がなく「まだですか?」と尋ねても「もうありますよ」と無責任な対応がされていると。私も今、50人待ちの本を予約していますが、すぐに本が手に届くように急いで、急いでではなく、待っているのもなかなか楽しいと思います。今、図書館に行ってみ渡すと、高齢の方が座っている空間ですが、さっきのフィンランドの図書館のように、子どもも大人も、若いママとかも集まれるようにするとマニアの場所ではなくなります。堺は利休や晶子など文化の街です。文化の拠点としての図書館があったら本当にいいと思う。ミニコンサートとか本当に素敵です。そんな豊かな場所に予算を下さいと言いたい。大学生など本を全然読まないと聞いていますが、ネットじゃなくて紙の媒体を読みましょうと言いたいです。やはりそれが自分の中の何かを育てると思います。

「よく利用している」という方と、「全然行ったことがない。大事な情報はスマホで全部済ませているから別に図書館必要ない」という方と。どんな図書館がいいか。環濠クルーズの方が「海に見える候補地がある」と、森の見える図書館がいい、あれはいけないこれはダメの禁止条項はやめてほしい。何をしてもいい、食べてもいい、しゃべってもいいそういう空間があってほしい、図書館は人、優秀な司書が配置されて働きやすい図書館がいい。図書館の空気、本の匂いというか、雰囲気感も大事ですが、中央図書館の冷房はガッガッガッとうるさい、限界が来ている。建て替えの構想はでは、住民の声をしっかり聞いて作ってほしいです。



図書館に勤めている方、図書館でボランティアされている方がいました。なぜ利用していないか。専門書が少ない、専門書は数年経ったら更新されていくので自分で買うしかない。どの図書館もアクセスが遠い。返却のハードルが高い、中央図書館の本棚の高い位置の本を取りにくい／どういう図書館が欲しいか。駅から近い、地域の図書館では30分でも駐車料金がかかりゆっくりできないので車でも公共交通機関でも使いやすいうように、自習室をもっと充実してほしい、喋ったり飲食できる大きなスペースを、書架のすぐそばに椅子やソファが配置してあるとちょっと腰掛けてバラバラと本を読んだりとかができる、明るい方がいい、子どもたちが自然に声を上げてもいいスペース、必要な本を簡単に探せるように、忙しい人が配達とか返却ボックスをバス停に作ったりとかをと。堺の図書館は重要な歴史資料を多く持っているので大事にして色んなことができる図書館にできたらと思います。

利用しない理由の裏返し、こんな図書館がいいということです。乳幼児スペース、小学生スペース、中高生がどこで本を探したらいいのか、今の図書館では出来ていない。自習スペース少なすぎる。借りた本をそのまま自分のパソコンに打ち込める場所がある。乳幼児には遊び場が、飲食スペースほしい。子どもが絵本に出会って読みたいと思うためには背表紙で並んでいては困る、書架の工夫が要ります。乳幼児向けの分類は、動物、乗り物、食べ物のジャンル別がいいのでは。みんな集ってイベントもできる芸術スペースの設置を望みます。利便性。駅に近い、これは大人が便利なんだろうね。子どもにとってはどうなのか。本の広場的なイベント、図書館主催での読み聞かせを大きく広く続けていってほしい。





利用していない理由。私は単純に開いている時間に仕事で行けない。けれど仕事
がなかったら行くのか、そもそもその生活の中に図書館に行く習慣がない。ゆっく
り読む時間がなく、返却時期があるから、借りるより自分で買って隙間時間で読み
たい。お子さんが図書館で勉強していたら追い出されて以降行かなくなった。うち
の子も元々結構、北野田駅前図書館に行っていたんですけど、最近見たい本がなく
なっ行って行かなくなったり。設備面で全体的に施設が古い。飲食スペースを併設してほしい。自習ス
ペースがあったらな。司書は一体どういうことができる人なのか、色々な相談ができることを、今日こ
こに来るまで知りませんでした。図書館の司書はこんなことができるというのが認知されていない。
これも大きいのではないかと思います。

【グループ討議で付箋に書かれたこと】

〔図書館を利用している人の想い〕

- ・図書館は文化のロビー
- ・堺の歴史により触れたい
- ・読み聞かせをもっと充実
- ・親切です
- ・図書館がもっとしっかりと方針をもってほしい
- ・気軽に職員とコミュニケーションとりたい
- ・無料で本が借りられる
- ・司書がいろいろ調べてくれる
- ・中心部に図書館が無いので利用しにくい
- ・本好きな人が行っても満足できない現状
- ・最近職員があいさつしてくれる
- ・ほぼ満足 堺メモリークラブで図書館内外の資料保存・活用の市民ボランティア
- ・もっと広いスペースと明るさを
- ・施設が古くスペースが狭い
- ・家族はよく利用する
- ・同方向に座る席→自由感がない
- ・会話する場所がほしい
- ・文庫活動のために利用
- ・旅行の本が古い、汚い、カビ臭い（4人）
- ・雑誌が少なく最新号は1か月後しか借りられない
- ・空間がせまい。長時間滞在したいと思えるように
- ・自習、閲覧、集会ができない
- ・図書館は本だけでなく、人とも出合う場所
- ・そのためのスペースを
- ・資料の充実を
- ・早く中央図書館を
- ・子ども室小さい（2人）
- ・学生の頃は本が好きでよく利用した
- ・人気のある本は予約しても数か月以上かかる
- ・新しい本、人気のある本の蔵書を増やしてほしい
- ・図書館から今月のおすすめや本を読む会の働きかけがない（2人）
- ・青少年センターは本が少ない
- ・ジョルノ貸出カウンターは民間委託で職員と会話できない、電話・口頭予約も×
- ・資料閲覧コーナー
- ・席の種類、明るさ
- ・棚の横に席を
- ・駅とかスーパーに返却ポストを
- ・開架書庫あればありがたい
- ・階段がづらい
- ・仕事で資料探すとき利用
- ・サービスなんかは満足
- ・年金生活で本を買うことができず図書館利用
- ・たまに雑誌・週刊誌を読みに行く
- ・本は図書館で利用(終活している)
- ・一応満足しています。必要な本の質問に応じてくれています
- ・南区のまちづくりで図書館を利用し、バス・公共交通軸にまちづくりを考え行動しています
- ・市駅前図書館利用
- ・電話で申し込み
- ・隙間時間があるとき座って読む
- ・南区は駅ごと図書館で満足
- ・新刊100人待ちの時も、新刊図書をもっとたくさん（2人）
- ・在庫本は物流がよく1～2日で届く



- ・蔵書数には満足、家で蔵書検索して予約
- ・中央と西図書館 2 週間に 1 回利用 西図書館 2 回研修室の利用 子どもの専用場所がある

〔図書館を利用していないのはなぜ?〕

- ・学生のころは本が好きでよく図書館に行ったが ・眼球に障害をもっていて最近では買ってよんでいる
- ・特に理由はありませんが、利用する機会がありません ・読みたい本がない ・駐車場が有料
- ・ネット等で購入 (2 人) ・ほぼスマホで知りたい情報が得られる (3 人) ・本棚が高い
- ・カードは作っているし施設の内容に不満を感じていないし空間としての図書館は好きだが微妙に遠い
- ・介護中で図書館に行く時間がない ・生活線上に図書館がなく休日わざわざ出かける気持ちにならない
- ・家から遠い (1 3 人) 都心部にないので利用しにくい/北花田分室がほしい/遠いので Amazon で済ませる/交通の便が悪く大阪市立図書館を使っている ・4 年前に転居してきてどこに図書館あるか分からない
- ・本が大量にあり読めていない ・雑誌が少ない ・職員が無愛想で聞きにくい
- ・本を読むことにそんなに時間を取ることが少ない ・話題の本は順番待ち
- ・忙しく返しにいけない(自分で買う) (4 人) ・中心部に図書館がない
- ・勤務時間の関係で間に合わない(土日は忙しい) (2 人) ・館内が狭い
- ・本好きな人が行っても満足できない現実 ・閉館時間を遅らせて
- ・必要な本は購入している (3 人) ・蔵書がすくない ・空調設備してほしい
- ・欲しい資料がすぐ出ない→スピード感がない
- ・貸出期間 2 週間で 3 週間に伸ばしてほしい (2 人) ・土曜・日曜の閉館時間が早すぎる
- ・中央図書館の子ども室が狭い ・子どもが今まで利用していたが現在していない。タブレットのせい?
- ・高校 1 年の息子が勉強していると注意されその後利用していない。泉大津図書館を使っている



〔こんな図書館だったらいいな〕

- ・直営で (9 人) ・早く中央図書館立て替えてください。市民の意見を聞いて ・探しやすい開架 ・表示
- ・中央図書館建て替え 職員と市民で学習して、意見交換してくらしに役立つ図書館づくりしよう。
- ・中央図書館の充実 ・図書館は人の成長の大もと。大切にしたい ・図書館を市民のリビングルームに
- ・中央図書館がセンターであるのは当然 ・石川県立図書館みたいな図書館を ・専門書の充実
- ・フィンランドのように市民の声を最重要事項に考えて ・ミニシアター ・防音設備
- ・個人では持ちえない広さと豊かな環境を ・緑豊かで窓から庭が見え、庭でも読書できる (3 人)



- ・一人で居場所がある図書館 ・楽しめる図書館
- ・行きやすい図書館 (3 人) ・探しやすい開架 ・表示
- ・手の届く高さの本棚(壁一面は不要) ・外国人に対応する蔵書
- ・堺の文化・歴史を活かす運営 ・堺の歴史をシリーズで勉強会
- ・本を買う予算を増やして欲しい ・資料費 2 億円はほしい
- ・必要な本の場所を簡単に検索できる
- ・早く課題解決したい、AI を使ってレファレンスサービスを
- ・パソコンが使えるスペースを ・好きな本を借りることができるようにもっとたくさんの本を
- ・開架書庫(自分で調べられる場)を ・絵本・児童書が多い図書館 ・本好きなこどもを育てる図書館
- ・専門司書の増員 (3 人) ・司書と話せる場 ・専任の司書がいる (4 人) ・司書の仕事を認知したい
- ・図書館づくりの要は「人」司書の専門性を高める ・司書は全小中学校図書館を廻り実情を知ってほしい
- ・中高生が利用したいと思わせる企画・スペースを (2 人) ・自習スペースを (6 人)
- ・本の紹介など本を読みたくなるようなコメントをもっと掲示してほしい ・専門書の充実

- ・予約本(集中する本)複本ふやして
- ・図書館で市民に提供可能なサービス内容をもっと知らせてほしい
- ・本の紹介など読みたくなるようなコメントをもっと掲示してほしい
- ・おすすめ本等のテーマ展示
- ・子どもから高齢者・障害者すべての人が利用しやすい場所
- ・外国人に対応する蔵書
- ・異年齢が交流できる広場が館内にほしい(9人)
- ・若い人たちが使いたくなる場(2人)
- ・子ども同士や親子がおしゃべりできるスペース(3人)
- ・一人ひとりがゆったりと過ごせる椅子(9人)
- ・中高生向けコーナーや多様な学習空間(3人)
- ・中高生が利用したいと思える企画・スペース(2人)
- ・明るくゆったりした空間づくり(6人)
- ・話していいスペースと静かなスペースを分けてほしい
- ・子どもが走り回って遊べ、おしゃべり OK スペース(6人)
- ・長時間滞在したくなる魅力的空間(2人)
- ・150名ほどの集える場、学習の場を無料で(2人)
- ・100名ほどが集う部屋を無料で(2人)
- ・地域のことを考えて行動している方との交流の場(2人)
- ・地域資料をそろえてほしい(地区図書館)
- ・おしゃれなカフェスペース(10人)
- ・飲食コーナー(7人)
- ・印刷スペース
- ・音楽室
- ・朗読スペース
- ・子育て相談所を併設
- ・読み聞かせなどを充実
- ・子ども向けのイベントを増やす
- ・ちいさい子の読み聞かせの時間がある
- ・ゆったりした児童室
- ・絵本・児童書が多い図書館
- ・本好きなこどもを育てる図書館
- ・本を買う予算を増やして欲しい
- ・資料費は2億円はほしい
- ・図書館の改善より、生活に根づく状況作り、図書館機能を市民に分かってもらうことが先かと感じた
- ・市民のくらしに息づく熊取図書館に感激
- ・子ども室の広さ、憩いの場、表紙みせの絵本コーナー
- ・行きやすい図書館(4人)
- ・区役所との併設、人が集まる場所
- ・観光客も立ち寄りたくなる図書館
- ・大浜の能楽堂が移転先を探しています、図書館や文化センターと併設できればいいなあ
- ・平屋建て
- ・海の見える図書館
- ・テラス席のある図書館
- ・社会福祉協議会と合併した図書館
- ・土曜日でも日曜日でも通常と同じ開館時間に
- ・働いている方にも利用できる時間を
- ・駅近で夜まで開館
- ・中央図書館整備よりも身近に多くの図書館を
- ・堺区図書館も早くつくりましょう
- ・堺区図書館は堺の歴史を親しみやすい図書から貴重な資料など大切に展示・閲覧・貸し出せるように
- ・利用しやすい北区図書館、多くの高齢者、すぐ近くで利用でき新聞とか色々利用している
- ・交通の便の良い所に堺区図書館を
- ・南図書館をもっと大規模に
- ・駅ビルの中に図書館分館を
- ・バスの便を増やして
- ・無料の広い駐車場(2人)
- ・障害をもっている人も楽に利用できること
- ・見習いたい伊丹市の「ことば蔵」は市民が共同して企画・運営するイベントが年間200本
- ・どこの図書館に行けるように無料か(50円)バスが週2回走らせてほしい
- ・各バス停に「街角の図書館」設置(時々司書が見回り整理)
- ・家に本を届けてくれるシステムを
- ・Uber Eats 的図書返却サービス
- ・各駅に返却ポスト
- ・アルバイトで回収させる(雇用が生まれる)

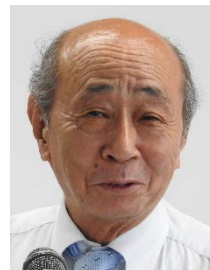


市民と共に育ち、市民と図書館員が共同して創り上げる図書館

自治体文化政策の基本視点からみた自治体図書館のあり方を考える

中川幾郎さん（堺市図書館協議会委員長）

皆さんこんにちは。堺市図書館協議会の委員長を仰せつかっています。堺市は、私という人間のバックグラウンドをちゃんと調べないで委員長に据えたのではないのかと思ったのですが、いや大丈夫ですとおっしゃったので着任したのです。



図書館は指定管理者制度になじむ組織ではない

なぜこんなことを言うかと言いますと、私は豊中市の図書館協議会委員長を10年以上務めました。その当時は「指定管理者制度」が猛威を振るった時期で、豊中市の行財政改革の担当者が「図書館も指定管理したい」とおっしゃった時、私はアカンと言って一蹴してしまった委員会の委員長なんです。なぜダメなのか、私はちゃんと論文にも書きました。その後、総務大臣になられた片山善博さんも、私の論文を参照したとおっしゃいました。要はですね、図書館というのは指定管理に馴染む組織じゃないということです。

大規模自治体は図書館への指定管理者制度を採用すべきではない

図書館への指定管理者制度は、本当は、大規模自治体は採用すべきではないのです。自治体に、専門能力を持つ人材を雇うにはあまりにも財力がない場合に、民間に臨時的に調達するのをやむなく認めようという制度なのです。それを行政直営で雇える資力のある、中から大規模自治体は、指定管理者制度を採用する必要性など私はないと思っています。

図書館司書は、しっかりした地域データを持つ住民のアドバイザー、研究のパートナー

特に図書館司書さんの仕事は、皆さん方のアドバイザーであり、研究のパートナーです。ただの貸し本の手続きをする窓口要員じゃないのです。だから住民とも親しくして、小学校や地域の保育所、幼稚園なんかとも付き合いがある。その地域がどういうニーズを持っているのかのデータを社会調査の実績で持っていて、この地域にはこんな蔵書が必要だ、こういうバックアップが必要だ、こんな研究のアドバイスが必要だ、という能動的なアクションができる司書を持つべきなのです。

1年や2年で雇い替えになる勤務条件で雇われている人にその仕事ができるでしょうか。その土地に骨を埋めてもいいというぐらいの覚悟を持った専門職をイメージしてほしいのです。

図書館には指定管理者制度はなじまないという答申を日本で初めて作成

私が委員長で、日本図書館協会理事長でいらっしゃった京都教育大学教授の塩見昇先生に副委員長を務めていただき、2人で共同作業をして、「図書館に指定管理者はなじまない」という答申を作成しました。日本で初めて指定管理者制度反対という表明をした図書館協議会の答申です。その後、私と塩見先生は日本全国から講演に呼ばれるか、攻撃されるかの二つに一つでした。それでも言ったことは間違っていないと思います。

自治体の法定外事務のままに置かれている図書館

図書館というのは、小さい町の町立や村立図書館もある。中核市から政令市になるところにも図書館もあるわけですが、大きくなればなるほど何か皆さん国会図書館がモデルと思い込んでいるの

です。国の機関である国会図書館は国会議員のための図書館です。昔の皇室博物館とか皇室図書館とかにつながるような、上から目線の図書館になる危険性を私は感じるのです。

そうではない。日本の図書館というのは実は戦後ようやく本格的な歴史が始まって、地方の図書館なんていうのは戦中にわずかにいくつかの自治体に設置された程度です。今でも図書館は法定外自治事務です。法の定めの外にある自治事務、つまり作らなくても責任を問われないという自主的な仕事なのです。

法定外自治事務だということが分かっていないから、贅沢品みたいに思う人もいます。これと同じ



位置付けの施設として、博物館や、いわゆる劇場や音楽堂。堺ではフェニーチェですね。あるいは各区にある公立文化ホール。これらは法定外自治事務に基づく施設です。であるがゆえに義務付けがないということを逆手にとって、贅沢品で、あったらいいなという程度のものだという発想がどうも全国に蔓延した時期があります。

これが大間違い。国と地方との間の役割分担に過ぎません。地方は地方の役割を果たす。例えば大学は国が責任を持つ。高等学校教育は基本的に都道府県が、小中学校は市町村が責任を持つということと変わらないのです。そういう意味で市町村は市町村らしい図書館を作らないといけないのですが、その図書館を作る法的義務を課すと戦後の日本の地方自治体はほとんど倒産してしまう。そんな財力は持ち得ないということで、自由な自治事務に置いたままなのです。

米ニューディール政策のもう一方の最大投資分野は図書館、博物館、美術館だった

1980年代に日米の貿易摩擦が起こります。日本の家電製品や自動車の輸出ドライブにアメリカがものすごい反感を持った。その時日本が受け入れた妥協策が内需拡大です。アメリカが暗に投資を慫慂したのが、1930年代のテネシー川開発計画（TVA）のようなニューディール政策の真似です。私たちは、テネシー川開発計画はケインズ型政策による消費、総需要拡大のための公共土木事業と学んできましたが、実はあの当時のニューディール政策で、もう一方の大規模投資分野は図書館と博物館、美術館だったのです。そして生まれてきたすごい産業がハリウッドです。

内需拡大策としての文化ホールから、住民の力で市民会館、図書館へ

アメリカはそれを言ってきました。日本もそういうふうによれよと。日本は工業国家主導型で、モノを作らなあかんと言っているけれども、もっと文化国家に向かって道があるだろうと言われて、はいわかりましたと急に作り始めたのが文化ホール。

ところがこの時、文化ホールではなくて市民会館が必要だと全国で頑張って作らせた団体が、子ども親子劇場です。同じように日本全国に公共図書館を広げてきたのは、子ども読書会連合会、子ども文庫家庭文庫などの親の活動なのです。だから国会図書館並みの図書館を我が町に持ってこいという運動ではないのです。住民自治としての家庭文庫や子ども文庫にいつまでも責任を押しつけるなど。専門書とか高い単価の絵本、全集、図鑑は家庭では購入できない、ちゃんと団体自治としての公立図書館を作って揃えてほしい。そういう歴史があるのです。

住民自治の支えがあって公共政策は動き出した 公共投資型文化との衝突

戦前に公立図書館を持っている地方公共団体なんて数えるほどしかありません。公立図書館ができていくのは、昭和30年代後半から40年代にかけてできていくのです。何を言いたいかというと、住民自治の支えがあって、全て公共政策というのは動き出したということです。

ところが日本のいわゆる公共政策、特に文化政策はアメリカの内需拡大という外圧によって動いたという変なところがあるので、その双方の流れがいまだに「がっちゃんこ」しているのです。いつでも政治の圧力が強いときには外需型の公共投資型の文化をやろうと。この最たるものが万博です。いやほんまですよ。万博もういっぺんやらへんか言うて、堺屋太一がぼやいたところから始まったというのが本当のところじゃないですか。

経済効果の疑わしい今回の万博

しかし今回の万博が1970年万博と同じ効果が出るかどうか疑わしい。消費乗数理論というのは私も経済学部出身者ですから一応学んでいますけど、いくら試算しても、70年のような乗数効果はでないとみえます。むしろ逆に、投資した分をどれだけ回収できるか怖い。新たな産業がそれから生まれますか。ばくち場ができるだけではないのか。実は私は大阪府市統合本部の特別参与を一年間務めていた人間です。その中で「こんなことをしたらあかんよ」ばかり言っていたんです。特に弥生博物館廃止なんかできるか。文楽協会廃止なんて問題の本質が違うじゃないかと言ったので大分方向が変わりました。話を元に戻します。



図書館司書、博物館学芸員、公民館社会教育士の共通の役割としての社会的実態の把握

つまり公共図書館というのは、住民自治活動があったから生まれてきたことを忘れてはいけない。住民自治のパートナーと存在してくれなきゃいけないのです。その二つをちゃんとつないでいく役割をするのが図書館の司書です。博物館には学芸員が、図書館には司書が、公民館には社会教育士や社会教育主事がいる。その人たちに共通の役割は社会的実態を調査しかつ把握していくことです。

だから、彼らの資格試験の科目の中に全部「社会調査論」が入っていて、それを学ばないと資格取得できない。その社会調査論の能力を駆使して、この区はこうだ、この区の中でもこの地区はこんな状態なんだ、例えば不登校の子が多い、いわゆる困難家庭が多いとか、そんなことを踏まえた上でのバックアップを行う、図書館を政策的に運用していくというのが司書の仕事です。それを統括し運営していくのが館長の政策的経営能力ではないのかと思っています。

社会的調査能力は現場に出向いて感覚でつかむ力

今、堺の図書館の定期報告書には、各区ごとの図書館の報告書と区ごとの実態に応じた対応策を書くようにお願いしていますが、まだそれは深まっていかないのが残念です。実際上の調査がなかなか難しいと思っておられるようです。私に言わせたら、アンケート調査をしなければならないと思うのは思い込みです。街を歩いたら良いのです。商店街を歩いたら良いのです。学校の周辺にいる登校拒否の子どもの様子を見ていたら良いのです。問題意識をもって観察すれば、ちゃんと様子がわかるでしょうと。それが社会調査能力というものです。紙と鉛筆、電算機がなかったら調査はできないと思っているのでは素人です。フィールドワーカーというのは、現場に行って感覚でパッと見極めます。あ、ここはどうも低所得者が多いのじゃないか。ここらの子どもが学校ちゃん行って帰ってきて、そしてみんなと一緒にご飯食べれてるんやろうとかね、考えるじゃないですか。そういう鋭い感覚を持った人間が社会調査をやったりやっていくわけですね。だから、図書館の司書さんも博物館の学芸員も公民館の主事も全部そういう能力を持っているべきだと思います。

社会的な実態に対応した芸術プログラム供給の能力が求められている

芸術文化ホールの担当職員、今文化庁で芸術職を置こうと試験的にやっていますけれど。その人たちにもお願いしたいのは、社会的な実態に対応した芸術プログラム供給の能力を持ってくれということです。いいものはいいんです、いいものが分からないのは鑑賞能力が欠けているからなんて、アホなこと言うのです。そういうこと言うのは傲慢な芸術至上主義です。生活の芸術化だけでなく、芸術の生活化の時代です。子どもたちにも、所得の恵まれない人にも、健康に恵まれない人にも、時間に恵まれない人にも、体験格差、読書格差がないようにするというのが人権保障です。

ベネッセの調査によると、小さい頃から親に、毎回図書館に連れて行ってもらったという家庭の子どもは、算数と国語の平均点がその体験のない家庭の子どもより 10%ポイント高い。美術館に連れて行ってもらった子は 5~6 ポイント高い。劇場や音楽堂に連れて行ってもらってオーケストラ聴かせてもらった子は 7~8 ポイント高い。一番ポイント数が高いのがあまりお金のかからない図書館なんです。だから進学率をと言うのだったら、図書館に子どもと一緒にいくというムーブメントをこしらえればいいわけです。これほど投資効果が高く効率の良い文化政策はないと思っています。

住民自治の機能が弱まると行政が手当てをせざるを得なくなる

図書館を通して住民自治を考えると、子ども文庫連絡会とか家庭文庫の会とか言いましたが、これを特定イデオロギーを持った団体みたいにおっしゃる方がいますが、私は一般市民活動としてとらえています。私の町、豊中でも子ども文庫連絡会、家庭文庫連絡会、子ども親子劇場。これ全部豊中の住民自治活動です。それがあって図書館ができていったのです。



このような住民自治の活動は他にもいっぱいあります。消防分団、地区防犯協議会、校区防災委員会、校区福祉会、社会福祉協議会校区委員会、地域自治会、PTA、地域医療機関。お医者さんも住民自治の担い手なのです。地域の医療機関がほとんど来てくれない所でこそ公立の診療所が必要になる。つまり住民自治の機能が弱いところほど行政は手当てをしてくれざるを得なくなる。だから和歌山では山奥に行けば国立病院がある。田辺の山の下の方に県立病院がある。和歌山市内の方はほとんど市立や一般病院がある。診療所自体も住民自治なのだと言ったら、ええっ？てみな言うんですよ。商売産業で言ったら商工会議所も住民自治団体です。

住民自治がしっかりしてくれれば行政はハイレベルの仕事に投資できる

このように各分野ごとに住民自治の組織があるわけですが、これがしっかりしてくれればくれるほど、行政はより高次の、よりハイレベルの仕事に投資ができるわけです。分かりにくいとおっしゃる方には、私地元の消防の話をするのです。私の町の消防は、実は救命救急率世界一に到達寸前まで来てるって言っているんです。びっくりするでしょ。豊中市ですよ。本当かよと私も思いますね。私の家の 50 メートル脇に消防本部があります。毎日豊中の駅に行くたびにそこを通るから、おはようさんっていつも言いながら行くから、向こうの消防士の人らとは顔なじみです。ここに「救命救急率世界一を目ざす」って看板を消防車に張ったので、それを見るたび笑って「この看板を外したら？ かつこ悪いな」って言ったら、「そんなことないんです、本当です」って言うのです。なぜって聞かれますと、「いや実は消防団のおかげなんです。中部から南部にかけてすごく消防団が充実してい

るんです。40 小学校区のうち 17 分団残っている。定年は 60 歳。ガツとまた若返って初期消火率が消防分団の方が早いんですよ。ボヤとか小規模の火事だったら分団が全部消しちゃうんです。だから、本部は大型の千里ニュータウン用のハシゴ車とか高圧放水車、化学消防車とか、そんなのが出動というときに行くのですが、それも他市に比べるとあまりないのです。その分の余力は、全部高規格救急救命車に回っています。まだ余力があり、豊能町の救急は全部うちがやっています。これ全部消防団の方住民自治のおかげです」って。

お分かりでしょうか。子ども読書会がしっかりやってくれたら図書館はそのバックアップに注力し研究機能とか蔵書バックアップとかを選んでいけばいいわけです。

住民自治と団体自治はシーソーゲーム

住民自治と団体自治の関係は実はシーソーゲームです。住民自治がダメになっていく、子ども読書会もなくなっていく、誰も子どものためにボランティア活動なんかしないのだったら、全部公立図書館の司書がやらざるを得ない。そうすると人件費がかかり、それを嫌がって指定管理にしたがる。そうするとまた低賃金非正規労働者が増えてしまう。この悪循環が起こるわけでしょう。その環境を一番理解してもらいたいのが行政です。二番目に理解してもらいたいのが議会。何か言えば効率化とか、行財政改革という名で、余暇社会対応の施設としての図書館、博物館、美術館、文化ホールはリストラの対象として考えたがる人たちが多い。余暇施設という認識が間違いなのです。

国際的基本権利条約の研修を義務づけていない行政はバケツの底が抜けている

障害者の権利基本条約、女性差別撤廃条約、子どもの権利条約、国際人権規約の基本規約 A 規約 B 規約を 1972 年頃に批准しています。にもかかわらず、日本はそれら基本条約の研修を自治体に義務付けていない。だから、国際的に日本が承認している基本的人権に関する条約の常識が行政職員に乏しく、バケツの底が抜けているのです。

芸術にアクセスする権利、文化的な生活に参加する権利、余暇休息遊びの権利、子どもの意見表明の権利といわれても、はあ？って言っている担当部局が多いのにはがっかりします。一昔前に、児童の権利条約に言う「休息余暇の権利によると」って説明したときに、はあ？と言う行政職員が多かったのびっくりしました。これこそきちっと勉強してほしい。

誰でもどこでも自分の得手とする表現の武器を手に入れる権利

文化的に生きる権利とは、いつでも、どこでも、誰でもが、様々な自分の得手とする表現の武器を手に入れてツールを手に入れて表現する権利です。音楽的表現をしたい、言語的な表現したい、身体的表現したい、美術的表現したい、造形的表現したい、全部これは自分で選んでいいんですよ。人それぞれの得手がありますから。スポーツも同じです。球技が得意な人、大きな球技が得意な人、小さな球技の方がいいという人。その選ぶ権利を行使することができる社会を作らないかんのに、文化に関しては体験格差があまりにも激しいまま放置されていませんか。

私の父は一時羽振りが良かったらしく、兄は学校に運転手付きの自家用車で行っていました。私が小学校に入る前に破産したようで、「すまんお前、おじさんのところに行ってくれるか」と預かりっ子になって 2 年間おじの家で育てられました。そんな風に育っているもんですから、小学校の高学年になり近所にピアノや絵を習ってくる子が出てきて、父にピアノを習いたいと言うと、アホかっ、うちにそんなゆとりあるわけないやろと怒られるのですね。ソロバンやったら行かしたる。ソロバンとピアノが同じ習い事なんですね。父親の頭の中そういう構造なのかと思いました。中学校の時にも絵を習いに行きたいと言ったら、あほかっ、簿記やったら行かしたる。この人は、簿記とソ

ロバンが習字や絵やピアノと一緒になんだと思って、まず絶望的な感じでした。

なので、私はそういう芸術的な体験格差はほとんど下の方です。なので、ピアノの音が鳴ってるお家を見ると、今でも幼年時代の闘争心がムクムクと湧いてきて、「石投げたろか。何がピアノじゃ」と。つまり、ピアノがあり、弾ける、習えるというのは、それだけの所得があるお家ですね。その所得の格差を感じるわけです。まさしくこれをなくそうということです。体験格差、読書格差をなくそうということです。図書館はそのための人権の保障施設だと申し上げたいのです

【グループ討論発表を聞いて】

公共施設の目的外使用許可で飲食スペースはすぐに可能

先ほどの10グループの討論を聞きました。特に共感しましたのは、伊丹の図書館「言葉蔵」では、市民運営の日が設定されています。すごくいいやり方です。お隣の兵庫県、中でも伊丹は抜きんでて住民参加が進歩している街です。学びに行く価値はありますね。今年は見直し時期に入っていますが自治基本条例も制定されています。

子どもの遊び場が欲しい、学生の自習室も欲しい。その通りです。飲食ができればいい。それもいい。かつて佐賀県の武雄の市立図書館でカルチャーコンビニエンスクラブ、つまり蔦屋がそれを引き受けたときに一世を風靡するニュースだと、カフェコーナーがありますって書いてあるから、私は大笑いしました。おいおい、コーヒーが飲めるって大騒ぎしているけど、そんなことは公共施設の目的外利用許可を出せばすぐできる、どこに図書館でコーヒー飲んだらあかんなんて法律で書いてあるねん。OKですよ。飲食コーナー作って、コーヒー販売しても構わないですよ。公共施設の目的は、利用許可のもとに適正な料金でやって下さいというだけのことです。

透け透けの交流スペース

交流スペースが欲しい。これも正しいです。塩尻の図書館とか、あるいは岐阜市の図書館。これ見事に交流スペースありますね。外から見えない閉鎖空間ではなく、透け透けのガラスで中の様子が外から見えるんですね。ここでこんなことやっている、こんなところでお話し合い会しているよねとかが見えるわけです。市民同士が交流している姿が見えるというのは、もうそれで学習効果が高い。じゃあ僕たちもやっていいんだとなるのに、隠れて見えないと何やってるかわからない。外にいる人はのけものにされてる感じがするんですね。それをなくしてるんです。見事にそういう考え方に立っている。自習スペースも閉じてしまうとやはり排除感が出るので、これもやっぱり透け透けがいい。音が聞こえないようにとかは大事です。多様な市民が集える場所が欲しい。その通りで、図書館はただみんなが静かに本を読む場所というイメージをそろそろ溶かしていったほしい。

美術館や博物館は見世物小屋ではない、子どもの学びの場だ

いつもショックを感じてもらうためにわざとガラ悪く言っているんですけど、皆さん図書館はただの無料貸本屋、公民館は安上りのカルチャーセンター、美術館や博物館は公設観光見世物小屋と思っていませんか。よそから客が来なかったらあかんじゃない。地元に住んでいる子どもや大人たちにとって学びの場になり、子どもたちが学んで卒業してるかってことが大事なんです

同じようにフェニーチェでちゃんとしたオケを聞いて、全ての子どもたちが卒業していけるようなことを目標にしてくれ、ということです。全て人権なんです。特にターゲティングしているのは子どもなのですね。まず最初に子どもを幸せにしようやないかいというところから、この世の中の変化は始まると思っています。次に弱いものを守ろう、ハンディのある人たちを優先しよう。暇がない人には、なんとかその暇を見つけてでも来れるような時間帯、真夜中のコンサートやってもいい

のでは。子育て期のお母ちゃんたちには、赤ちゃんがワンワン泣いてもかまへんジャズコンサート。逆にバックグラウンドミュージックで、キャキャワーワー言うて泣いてもかまへんって。ちょっとでも声を出したらシッお黙りと言われるようなクラシックのコンサートではなく。

遠隔地には出張して

遠隔地の人には来やすいように、こっちから出張してあげる。私は滋賀県の文化審議会の会長を12年やりました。あのどでかい戦艦大和みたいなびわこホールが議会でたびたび問題になります。金食いマシンと言って怒号が飛んだりしたんですね。最初はよそからたくさんお客さん来てお金落としてくれて消費乗数効果で何とかいけたけど、4~5年経つと、湖北の人間は行かれへんやないかい、米原から大津まで来るのにどのくらいかかるとするねんって怒られるんですね。冬になったら雪で閉ざされて、北は雪、南は雪なしと分断されてる県です。それでこれはあかと決めたのが、びわこホールの付属演奏団をアンサンブル化して小型編成にして出張させたのです。混声合唱団も小型に混声合唱団を作り直して行かす。学校に行ってもよし、病院に行ってもよし。希望があれば行きますということで巡回しつつしかも無料。これ徹底的にやりました。子どもが小学校卒業する迄にびわこホールでオペラをちゃんと鑑賞して卒業する目標で。確か去年達成したんちゃうかな。

それを今堺でやってくれと私は文化審議会会長として計画を作って引き継いで一昨年退任したんです。まあ鬱陶しかったと思います。たくさんの難しい仕事をしろと言うてくれるから。でも今の堺の文化振興事業団はそのつもりで一生懸命やってくれていますよ。学校にもアーティスト派遣してくれているし、保育所、認定子ども園、幼稚園にも小型のグループ派遣をしています。

それと同じようなアクティブな発想をこの図書館行政に持とうではありませんか。分室とか分館という発想ももちろん大事なんですけど。それ以上に、司書が出ていって地域の人らと交わりながら、今度はここでどんな読書会するとかどんな本が読みたいとか。そうするとこっちに来るのがいいの、こっちから向こう行こうとかね。そんなことがどんどん展開されていくのが本来の公共図書館の仕事だと思います。デーンと待っていて、はい見にいらっしゃいなんて国会図書館と違うのだから、自治体図書館なんです。地方自治なんです。

国民があって国家があるということ

地方自治の一番根本にある、住民自治があってこそ団体自治が成り立つという原則を覚えておいてほしいんです。はじめに役所ありき、みんな思っているけどね。違うんですよ。この国も同じように国民があって国家があるわけであって、国家があって国民があるんですって言い方をこれ国家主義って言います。同じようにナショナリズムって言葉を使うんだけど、国民あっての国家ですっていうのもナショナリズムなんですよ。ナショナリズムって国家主義と訳すの、国民主義と訳すのとふたつあります。国民あっての国家でしょ。つまり国民主権主義ですからね。

ところが「国民に主権があるって憲法はおかしい」なんて言う議員さんが出てきたので、私ほんとにひっくり返ってびっくりしました。だったらこの人、憲法規定によって選出された国会議員をやってられへんのではないですか。自分が否定する憲法のもとで選出されてるわけですから。

国民主権を基本とする意味では、地方自治は住民自治こそがスタートですよ。その住民自治で補うべきこと、住民自治では無理だよなということを公設型の図書館、あるいは団体自治がやるというのが本当に正しいのです。

住民の読書力、住民の研究力を高めていくためのバックアップをする図書館を作ってほしい

巨大資本、巨大権力、巨大組織でやれる仕事があります。そちらの方ばかりボーンと行く、いきな

り大きな事業のほうに行ってしまう発想を、中規模・大規模自治体が取ってしまう傾向がある。自治体行政は住民自治では無理だよねってところをまず引き受けて仕事してください。地元のいわゆる消防分団ではちょっと無理と思うところを、消防本部が高規格救急車、化学消防車を。図書館も同じです。いきなり高次機能を備えたスーパー情報センターを作れなんて言ってないんですよ。そうではなくて、住民の読書力、住民の研究力を高めていくためのバックアップをする図書館を作ってほしい。私は協議会の中で各図書館の報告書、毎回報告書をもらいますが、その報告書に地域課題とか区ごとの課題をもっと掘り下げてよねって言っています。

最近図書館当局も随分頑張って下さっていて、各館の司書さんの能力も高いけれども、やっぱり大きすぎて、どうしても動きがのそのそとしている感じがします。機動力が出ないのは、やはり地域ごとの課題に深く立脚せずに、やたら高度な汎用性の高い大規模図書館というイメージを持ちがちなのではないか、と思います。

図書館と住民の共同参画を

図書館の評価年報でも絶対に載せてほしいと私が言ったのは、各区ごとの図書館における住民との参画と共同の実績。これが載ってない。例えば子ども読書会とか図書館の友の会があって、そこにこれを助けてもらいましたというのがあるはずですよ。それはないというのはあまりよくないです。

豊中の場合もそうです。例えばブックスタート事業が、昔公明党さんが頑張ってくださって始まったのですが、健診現場に派遣する司書が足りなくてみんな悲鳴を上げたんです。その時に、子ども読書会のお父さんお母さん方が絵本読みを助けてくれました。住民自治の協力なくしてあのブックスタート事業は完結できなかった。

そういう事実をなぜ書いていないのかと、図書館協議会委員長として意見を申し上げました。住民自治との実績を年報に載せる必要がある。もう一つは司書のレファレンス件数。どれぐらい住民の研究に対してアドバイス協力したか、何を助けたかを書いてくれと。そうしないと本当にその図書館がアクティブに頑張っているかどうか評価できません。図書館協議会というのは、住民参加の事業・政策評価機関だと私は思っています。従って、私たちが正しく評価できるデータが欲しいと言っているわけです。

堺の図書館がアクティブな教育機関に変わる機会が来ている

図書館は単なる貸し本屋ではありません。博物館は見せ物小屋ではありません。文化ホールは公設演芸場ではありません。人気芸人を呼んでおったらええような場所ではありません。全部、教育機関なのです。公民館は安上がりのカルチャーセンターとは違います。公民館は市民が市民として育っていくための鍛錬場です。だから討論の仕方もあるようにして頂かないと困りますよと言っています。

そういう意味で堺の図書館がそういうアクティブな図書館に変わるいいチャンスが来ていると思います。特に中央図書館、堺区図書館をどう設計するか。先般図書館協議会の場で私はお願いしました。議会に上程する原案ができる前に、図書館協議会は諮問機関としてこの基本構想については議論する場が協議会を通じてあるようにして頂かないと困りますよと言っていますので、そこに公開されるはずですよ。

また、図書館協議会で議論されたことが議会で批判を受けた時期があったと聞きましたが、そうですかそれは結構です、その代わり議会で図書館関係の議論があったときは、必ず図書館協議会にその会議録をコピーして返し、図書館協議会に報告するようにして下さい。これぞバーターではありませんかと。こちらの議論も向こうに渡してもらって結構。その代わり議会でも言ったこともこっちに返してくれ。言われっぱなし、言いつぱなしはフェアではないということをルール化しました。

「市民と共に育ち、市民と図書館員が共同して創り上げる図書館」

-自治体文化政策の基本視点からみた自治体図書館のあり方を考える-

@帝塚山大学 中川幾郎

○ 私が参画してきた自治基本条例策定自治体は

豊中市、阪南市、大和郡山市、生駒市、吉野町、上牧町、広陵町、河合町、西脇市、佐用町、朝来市、丹波市、伊賀市、名張市、甲賀市など。

○ 私が参画してきた社会教育員会、図書館協議会は

過去・・・豊中市、大阪市 現在・・・堺市、舞鶴市

1. 自治体文化政策の基本的視点に立ち返る

※ イベント・地域経済振興型の「勘違い」文化政策から脱却しなければならない

※ 市民一人ひとりの文化的人権保障のための文化政策への転換を

(1) 時代遅れな余暇社会対応型・地域活性化型文化政策思考からの脱却

図書館、公民館、博物館、文化ホールへの時代遅れな捉え方

→図書館は自習室付き無料貸本施設か？

→公民館は余暇社会対応の公設カルチャーセンターか？

→博物館は公設観光見世物小屋か？

→文化ホール(劇場・音楽堂)は、公設貸しホール、公設演芸場か？

(2) それらは市民の「文化的人権保障」の施設・機関である

図書館、公民館、博物館は「社会教育施設」と位置付けられている

文化ホール(劇場・音楽堂)も法によって準「社会教育施設」とされている

それらの施設には、教育機能を担う組織・人材がいなくてはならない

図書館=司書、博物館=学芸員、公民館=社会教育士(主事)

劇場・音楽堂=(仮称)芸術経営士などが現在検討されている

2. 改めて「地方自治の本旨(Principle)」を考える

※ 地方自治は、住民自治と団体自治の両輪で成り立つ

(1) 団体自治を担う二つの機関

① 首長・執行機関(行政委員会)及び行政組織(職員＝補助機関)

② 地方議会

(2) 住民自治の三つの側面

① ヨコ=地域社会の共同統治(自治会・町内会など)

② タテ=市民社会の有志による課題解決(NPO,ボランティアなど)

③ ナナメ=住民による団体自治への直接統制権の発動

リコール(首長、議員などの解職請求など)

レファレンダム(合併の是非などについての住民投票)

イニシアティブ(条例の改廃請求、請願、陳情など)

3. 我がまちの活力を生み出すための住民自治への重点強化政策

(1) 団体自治の活性化は？

① 自治体行財政改革をすればよい？

コストダウン、生産性向上、あらゆる部門を民営化、それが本当に正しいのか？

② 自治体議会改革をすればよい？

議員定数削減、歳費の削減、それが本当に正しいのか？ それだけか？

- (2) 住民自治の活性化は?どのようにする (3) 堺市ではどうなっているか

4. 団体自治と住民自治の相関関係を見据える

- (1) なんでもすべて役所がすべき、と住民は思っていないか
(2) 各部局はそれぞれに関連する住民団体、地域団体などを下請け的にみていないか
(3) 住民自治と団体自治の相関関係を認識しているか

- | | |
|------------------------|-------------------|
| ① 消防・・・消防分団 | ② 防犯・・・地区防犯協議会 |
| ③ 防災・・・校区防災委員会 | ④ 福祉・・・校区福祉会 |
| ⑤ 環境・・・地域自治会 | ⑥ 教育・・・PTA |
| ⑦ 文化・・・文化協会、子ども文庫連絡会など | ⑧ 医療・・・地域医療機関 |
| ⑨ 税務・・・納税貯蓄組合(昔) | ⑩ 産業・・・商工会議所、農協など |

- (4) 住民自治と団体自治の役割分担

※ 住民自治では資本、組織、権限、物理的な力が及ばない分野を団体自治が担う

5. 住民自治と団体自治を繋ぎなおす「参画と協働」原則を徹底する

- (1) 住民と行政の「参画と協働原則」の導入
(2) 横浜コード、愛知協働ルールブック、奈良市協働原則、朝来市、豊中市の原則など
(3) 奈良市、朝来市、高浜市、草津市などでは部局における参画の例外を認めない
(4) その項目を確認すると

- ① 対等(お互いに上から目線では無理)
- ② 相互理解(相手側の論理を理解できないようではダメ)
- ③ 自主性尊重(相手の組織内に干渉することはルール違反)
- ④ 自立化(いつまでももたれあわない)
- ⑤ 目的共有(ここがズレていることが多い)
- ⑥ 相互補完(互いの強みと弱みを理解できていない)
- ⑦ 情報公開・情報共有(協働課題に関する情報の非対称性は禁忌事項)
- ⑧ 共に変わる(終われば形状記憶合金のごとく元通りでは意味がない)
- ⑨ 期限(期限を切って仕事をする)

※ 奈良市、西宮市などでは「事業報告書」において、相互評価で点数を記載する

6. 5つの「協働」領域、4つの協働プロセス

※ すべての部局に協働の実践が求められている

- ① 委託 ② 補助 ③ 後援 ④ 共催

- ⑤ 第三の協働(新しい公) 政策形成過程、政策決定過程、政策実行過程、政策評価・修正過程

※ 「政策協働」と「事業協働」とがある

7. 図書館を通して住民自治を考える

- (1) 子ども文庫、家庭文庫の歴史が地方自治体の公設図書館の基礎を作った
(2) 子ども・おや子劇場の歴史も各地の劇場・音楽堂を発展させてきた
(3) それは住民自治による公共文化政策の地盤形成であった
(4) だが、団体自治による施設・機関形成は、官僚主義に陥る危険性もある
(5) 公立図書館ではこれを防止するために「図書館協議会」が設けられている

【クエスチョンタイム：市議に聞く】

< 淵上猛志議員 >

堺市図書館への指定管理者制度導入はあるか？

市長は、図書館にあまり関心がないように感じます。指定管理者制度を入れる意思もあまり感じません。一方、中央図書館の建て替え事業も一向に進んでいません。

堺区図書館の進捗状況は？ 理想を追求して前に進まない状況

担当者は自分たちの理想的なものを作りたいから、なかなか妥協せず、全然決まらない状態です。かといって行政職員的に自分たちで候補地を探してくるぞという迫力もなく、図書館好きが理想をめざしているがために結果的には現実のものにならない感じです。

中央図書館建て替え候補地は？ 大阪女子大跡地でほぼ決まりだが…

中央図書館に関しては議会答弁内容でお答えすると、おおよそ大阪女子大跡地で決まりと思います。そこ以外考えられない答弁です。一方、大阪女子大跡地でどんどん進むかというところではなく、あそこは先に博物館と美術館を併設した「堺ミュージアム」構想が表に出ています。市長は堺ミュージアムにはこだわりがあります。こちらが先行して、余った土地で中央図書館かなという気がします。

堺区図書館候補地は？

堺消防署跡地はなくなったと言っていいでしょう。他区の図書館面積が 2000～3000 m²。消防署跡地に建てると、ワンフロア 800 m²、2 フロアにしても 1600 m²と狭めです。また別の活用方法に決まりつつあります。堺旧港そばの堅川ポンプ場がやがて廃止され 2000 m²弱の跡地活用が未定です。やはり小ぶりですが、海が見えておしゃれで堺駅徒歩 5 分ですが、どうなるか分かりません。南海堺駅そばの広い南海バス車庫がありますが、南海電車の所有地ですから、交渉するかどうか全くの未知数です。堺東の高島屋撤退後に、駅ビルに入りそうな気がしています。

図書館予算が減らされる可能性は？

今の堺市に増やす方針はないです。シーリングと言いまして、予算が足りない時に、一律で何%カットみたいなのをやるのです。義務的な生活保護費とか福祉関係予算はいや応なしに増えます。教育関係はシーリングから外せと主張しても、今の市長さんのもとではあおりをくらってカットされる可能性は今後もあり続けると思います。

図書館に理解を持つ議員を増やすには？

是非皆さん、色んな議員にアプローチして下さい。ここに来られていない議員も関心がないわけじゃない。議会で図書館の議論をしている議員はたくさんいます。皆さんが応援していない人でもまともな議論をしている人はいます。図書館とかで議事録を検索してみてください。

大小路交差点のロータリー計画は？ これはなくなったと言っていいでしょう。

タブレット教育が気になっている。学校に行くよりタブレットでゲームをしている

ICT 教育が全国的に良くも悪くも有名になって緩める気がほとんどありません。現場がこのためにすごく苦勞しているのを知っているの、私ははどめをかける方で頑張りたいなと思っています。

仁徳陵の気球は、いつやるんですか？

やります。ヘリウムガスは希少資源ですが、一時に比べると入手性はちょっと落ち着いていると聞いています

堺市のゼロカーボン政策の目玉は？

温室効果ガス排出、プラスマイナスゼロになるビルに補助金を出したり、公共の建物をそういう



ふうに持っていたり、そんなことをやっています。

万博遠足、堺では8割の小中学校は行きませんが、どう評価すれば？

堺の校長先生が頑張りはったなと思います。思ったほど今の市長が現場に圧力をかけなかった感じがします。ちょっと意外でした。

堺都心部活性化調査特別委員会での堺区図書館の議論に注目を

7月から始まり、私はその委員になるつもりです。そこで堺区図書館のことを議論して合意形成を図って打ち出せたらアクセルになるのでぜひ注目頂きたいと思います。

<長谷川俊英議員>



新金岡地域のまちづくり

まち開きから60年になる新金岡団地の再生は必要なので、新金岡地区活性化推進室が北区役所に置かれています。ご質問の新金岡町2丁2番では府営住宅が建て替えになって広大な空き地ができています。他にも府公社住宅の建て替えに伴う空き地が出てくるので、今後の活用計画について活性化推進室が大阪府などと折衝しているはずですが、今の段階で全く未定ではないかと思います。なお、府営住宅の建て替えは、3丁8番や4丁5番・6番でも進んでいます。

光竜寺小学校の廃校

次のご質問の光竜寺小学校の廃校に関しては、同校区の連合自治会長と大泉小学校校区の連合自治会長の間で両校の合併についての話し合いが行われたと聞いています。しかし、PTA会員などから抵抗の声もあがり、アンケート調査が行われましたが、その結果はまだ公表されていません。ただ、私は大泉校区に住んでいるのですが、同小学校の今年の新入生は23人です。光竜寺小学校でも児童減少の傾向があるはずですから、教育委員会としては統廃合を進めたいのだろうと思います。

新金岡の活性化

私が新金岡団地に入居したのは、まだ開発整備中の1968年です。入居後2年後の1970年に『こんにちは！新聞』（月刊）という地域新聞を団地で知り合った仲間たちと創刊しました。その地域新聞を媒体にして様々な住民の活動が始まりました。母親たちが始めた子ども文庫の活動が地域図書館の設置要求運動に発展し、北区図書館の前身である新金岡図書館ができました。また、共同保育の運動が新金岡保育所の開設につながりました。他にも、当時空き地だった「地区センター用地」を使った共同購入など、さまざまな住民運動がたくさんあって、市に働かせて色んな公共施設などを整備してきた経緯があるのです。今進められようとしている新金岡の活性化の中に、果たしてそういう市民の力が活かされるのかちょっと気になっています。活性化推進室の設置には維新の議員が声を高めていたようで、今後の活性化事業が万一にも維新の利権の場にはならないように監視しておく必要もあるのかなと思います。

【補足＝長谷川】

市政チェック学習会終了後、当日お答えしきれなかった思いがあったので確認を試みました。新金岡地区活性化推進室は今年3月に「新金岡地区活性化推進プラン」を発表しています。それによると、2丁2番の府営住宅跡地などは「北西エリア」と位置づけられ、「複合開発によるエリア価値の向上」との方向性が示されています。また、「多様な世代が安心して暮らせる住環境の創出」、「交流と賑わいの創出」、「区域特性に応じた一体的な土地利用の推進」を課題として掲げており、これらを含む資料が3月28日に開催された堺市都市計画審議会に提出されているので、今後、同プランに掲げる方向性に基づく開発規制などが定められる可能性もあります。

【市民運動交流】

6/15『ホームレスを生きる女たち』上映会

小堀直子さん



豊中では女性たちの問題を取り上げる「シニア映画祭」を毎年続けておられます。オーストラリアの映画に豊中の方々が日本語字幕をつけられて昨年秋に上映されたのがこの映画です。どこかで自主映画をしませんかという呼びかけが正月明けに寄せられましたので、じゃあ堺でやってみようかと企画を考えました。

この映画はコロナとか病気とかちょっとしたきっかけで仕事をなくしてホームレスになってしまったオーストラリアの10人の女性のドキュメンタリーです。50代の女性が多い。私たちもどんなことでホームレスになるかもしれないと実感しました。6月15日サンスクエア堺で上映しますのでご参加よろしくお願いします。

6/28「能登⇄堺 心をつなぐつどい」

田中晋一さん



私は輪島の南志見地区の出身です。震災に遭った後、立ち直りかけていた地元の人たちが、去年の9月には大洪水に見舞われて立ち直れなくなっている状態です。何とかしたいという思いで足を運んでいます。今回は能登と堺をつなぐコンサートとお話を伺う企画です。お話いただく矢野宏さんが発行されている月刊『新聞うずみ火』では、毎月のように能登に足を運んでの現地の様子の紹介を掲載していただいています。もうお一方の北野進さんは、珠洲原発反対活動を当初からずっと続けてこられてきました。地元からこの地震で、珠洲原発建設を止めてくれて本当に助かったという声がいっぱい寄せられた方です。能登から来ていただいて、どういうふうにして珠洲原発建設を止めたのかという話を伺います。合わせてうたごえサークルと太鼓集団にも共演をしていただきます。昨日からドキュメンタリー映画『能登デモクラシー』が第七藝術劇場で上映され、能登の住民自治や、退職教師の方が月1回の手刷りの地域交流新聞を発行され、こんな能登でいいのかと働きかけている姿が描かれていることをご紹介します。

路線バス減便の回復を求める署名にご協力を

吉村薫さん



去年10月、南海バスが堺市内6路線のバスを減便しました。私の最寄り駅の梅・美木多駅～津久野駅の路線は10～15時までという中途半端な時間帯だけとなりました。

通勤に使っていた方は、徒歩だと駅まで30分かかり、帰りは荷物もあるのでタクシーに乗らざるを得ません。片道1000円、月に2万円かかります。給料がタクシー代に消えていく。非常に困っているということで、小さな会を作り、4月から署名を集めたところ、大きな反響があり1,019筆集まりました。

今、全国のバス会社8割が赤字なので、南海バスさんの経営が大変なものよく分かります。そこで堺市に期待したいのは、政令指定都市としての役割の発揮です。バスの運行を民間事業者任せにせず、せめて1時間に1本走らせるくらいの財政支援をして、住民の足を守ってほしい。引き続き署名を集めていますので、ご協力いただけたらと思います。

ドキュメンタリー映画 (90分・2022年制作)

『ホームレスを生きる女たち』

現代の女性の貧困について考えさせられる映画

2025年6月15日 (日)

14:00～16:30

上映後終了後 感想シェア会

会場：サンスクエア堺

(A棟2F 第1会議室)

(JR阪和線「堺市駅」徒歩3分)

上映協力費：800円

当事者・生活保護利用者は無料

申込・問合せ 申込はこちらから ➡

Email QYD04504@nifty.com

☎ 090 3995 0666

Fax 072 242 6315

*なるべく事前申し込みをお願いします



主催：『ホームレスを生きる女たち』上映実行委員会・NPO法人ふえみぱる堺





「ホームレスを生きる女たち」

現代の女性の貧困について考えさせられる映画

オーストラリアでは、ホームレスになる割合が50歳以上の女性で最も高く、映画には10人の女性が登場します（路上生活ではなく車上生活）。

離婚、DV、失業などきっかけは様々ですが、根底には女性の低い賃金とそれに繋がる低年金、生涯にわたり無給で家族の世話を担っていることなどがあります。

自分と重ね衝撃を受けたスー・トムソン監督（映画・テレビの脚本家・監督。平等や人権に関心があり、LGBTQやメンタルヘルスなどを扱った作品がある）自らが脚本を書きました。ナレーションは俳優のマーゴット・ロビー。制作：スクリーン・オーストラリア。

日本でも2020年11月、路上生活をしていた大林三佐子さん（当時64）が、渋谷区のバス停前で男に「邪魔だからいなくなしてほしい」と石を詰めたペットボトルで殴打されて殺害された事件が起きました。大林さんは若い頃、劇団に所属し演劇の道を歩んでいましたが、亡くなった時の所持金はわずか8円でした。

この映画が取り上げる女性の貧困問題は日本社会にも共通のテーマです。この映画を見て改めて、女性の貧困について考える機会にしたいです。上映会後の感想シェア会にもご参加いただければ幸いです。

2025年6月15日 (日) 14:00~16:30 上映後終了後 感想シェア会

会場：サンスクエア堺 A棟2F 第1会議室（JR阪和線「堺市駅」徒歩3分）

上映協力費：800円 当事者・生活保護利用者は無料

■ 申込み（なるべく事前をお願いします）

* Email：QYD04504@nifty.com

* ☎：090-3995-0666

* FAX：072-242-6315

お申し込みは
こちらから ⇒



主催：「ホームレスを生きる女たち」上映実行委員会・NPO法人ふえみばる堺
協力：シニア女性映画祭

能登台堺 能登の今を知らう！ できることを考えよう！ 心をつながつとどい

お話 北野 進さん
珠洲原発反対運動に関わり 31 歳から石川県議を 3 期務める。その後、石川県平和運動センター事務局で平和運動に携わり、2011 年からは 2 期珠洲市議を務める。
現在「志賀原発を廃炉に！訴訟原告団」団長。

お話 矢野 宏さん
「新聞うずみ火」代表。元黒田ジャーナル記者。朝日放送や関西テレビの番組でプレゼンを務め、テレビやラジオで、コメンテーターとして日々のニュースを解説。2002 年から 2014 年まで、関西大学非常勤講師を務めた。
昨年の地震以後、毎月能登を訪問し取材。

地震前の美しかった白米千枚田(輪島市)。昨年も 120 枚に稲を植え、刈り取った直後に豪雨が襲い、田がまた崩れ流れた

賛助出演：うたごえサークルブーケ

レガータ

和太鼓 晴嵐 せいらん

会場にて能登へのカンパを
訴えます。ご協力いただけ
ましたら幸いです。

<呼びかけ人>

浅田勝美	石若雅弥	伊藤厚子	呉 時宗	大町英三
小川たか子	荻野 豪	亀井明子	川崎美栄子	河端紀子
小松清生	小堀直子	斎藤和則	佐藤美津子	城 恵子
高橋 保	巽 照子	田中千寿代	西井啓子	長川堂いづ子
浜田紀男	原 圭治	姫田道郎	洲上經子	前田純一
松永健治	松永直子	豆多敏紀	山部 聡	山本恵造
吉村 薫				

(あいいうえお順 敬称略)

日時：6 月 28 日(土) 午後 1:30～4:30 (開場 1:00)
場所：サンスクエアホール (JR 堺市駅徒歩 4 分)
参加協力券：999 円 障がい者・中学生以下 500 円

連絡先：田中晋一(090-9168-0989)輪島市南志見地区出身

田中早恵(090-5050-8914)

または最寄りの呼びかけ人・参加団体・事務局まで

主催：能登台堺 心をつながつとどい実行委員会

路線バス減便の回復を求める陳情署名 第一弾 1,019筆!!



5/8(木)堺市議会へ提出しました
署名へのご協力ありがとうございました
次は6/9(月)15:00~意見陳述です

署名用紙の厚みは
5センチ以上!!

寄せられた声の一部を
ご紹介します

今年、子どもが高校受験。バ
スがないと通えない高校は
受験できず、選択肢が狭くな
ります。

このマンション(B団地)を
買った時は循環バスがあ
り通勤にも便利だったの
に、循環バスはなくなるし
減便になって、住み続け
られないかも...



堺総合医療センターは津久野
にあるので、他のバスで鳳
まで出てから津久野へ行っ
てい。お金も時間も大変。

路線バス減便の回復を求める陳情書

南海バスは2004年3月18日から堺市で路線バスを減便にしました。
南・東・西・北・東・西・南(東・西・北・東・西)も廃止となり、平日10時
から15時までのみの運行になりました。利用者は大変です。
特に、朝夕の通勤・通学をしない人や高齢の人等、交通の
手段がありません。また、従来の高齢化に伴い、移動が困難になっ
てきています。
高齢者に乗ってくださるバスを待っていて、乗れた乗客もいます。
た。バスが来ない、バスは来ない。
南海バスは「乗客が少ない、乗客が少ない、乗客が少ない」等
の理由で減便にしました。堺市は高齢化に伴い、乗客を減らす、
住民のニーズに合った公共交通機関を打ち立ててください。

陳情事項

- 一、南・東・西・北・東・西・南(東・西・北・東・西)を廃止してください。
- 一、バスが来ない、バスは来ない。
- 一、乗客が少ないのを防ぐための対策を講じてください。

氏名	住所

この署名の総数、署名は100人以上の署名です。

署名欄(氏名、住所)を記入してください。

小型のコミュニティバ
スでも、1時間に1本で
もいいから走らせてほ
しい~!

今は娘を毎日、駅まで送り迎
えをしています。私も年
なのでいつまでできるやら...

通勤の時間帯にバスがなくなり、週に5日
はタクシーを使っています。駅まで歩くと
30分かかり荷物もあるのでタクシーを
使わざるを得ない。が、給料がタクシー代
で消えていきます...

これまでの経緯や今後については
裏面へ→

議会の全ての会派に提出しました

南海バスさんにも
要望書をお渡ししました

★★これまでの経緯と私たちの考え★★

突然、バス停に紙一枚が貼られて…

2024年10月、樺・美木多駅～津久野駅行き（桃山台経由）のバスが突然、減便になり、ダイヤ改正後は何と午前10時台～午後3時台だけの運行となりました。

※堺市で減便されたのは計6路線

南海さんも経営大変なのは分かるけど…

南海バスさんは減便理由を「乗客が少ない、乗務員不足、採算が合わない」等をあげています。たしかに物価高に加えて今は万博需要もあり、バス運転手の取り合い状態です。また、働き方改革で運転手さんの働く環境改善も大切です。全国的にもバス路線の廃止が増えており、南海バスさんの経営が大変なのはよく分かります。

他の路線と比べて少なすぎる

しかし右記のとおり、明らかにバスの本数が減り、通勤・通学、堺市立総合医療センターなどへの通院にバスを利用する方たちは本当に困っておられます。せめて1時間に1本でもよいのでバスを走らせてもらいたいです。

公共交通政策は自治体にも努力が求められる

運転免許を返上すると住民は移動できなくなります。法律上、自治体は地域の移動手段を確保するため「地域公共交通計画」を定めるよう努め、実施しなければならぬとされています（地域公共交通活性化・再生法第5条）。

堺市は政令指定都市です。住民の「移動権」を保障するという立場で、南海バスに補助金を出すなど住民の切実なニーズに沿った公共交通施策を設けてほしいです。

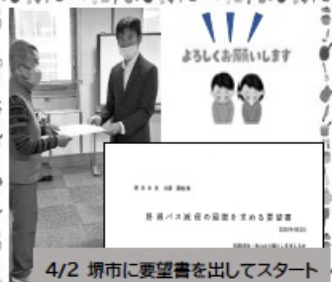
堺市に要望書を提出し、署名を集めました！

2月に「桃山台の暮らしを考える会」を立ち上げ、4/2に堺市へ要望書を提出（右上写真）。みなさんのお宅を訪問したり知り合いに協力してもらったり…みなさんのお力で何と1,019筆が集まりました！

自治体の役割は法律でも示されています！

●交通政策基本法第9条（地方公共団体の責務）
「交通に関し、…地方公共団体の…自然的・経済的・社会的諸条件に応じた施策を策定し、…実施する責務を有する」

●地域公共交通活性化・再生法第4条の（3）「市町村は…主体的に…地域公共交通の活性化及び再生に取り組むよう努めなければならない」



	①	②
バス	津久野駅	阪ヶ丘駅
時刻	233V	234V
5		
6	9 44	
7	15 45	
8	13 47	12
9	43	23 34 53 59
10	41	37 24 31 52 57
11	45	26 36
12	35	45 29 8 17 31 38 59
13	45	29 29 39 59
14	5	45 29 9 31 38 59
15	5	45 28 8 31 39 59
16	32	9 31 38
17	37	50 3
18	21 54	
19	27 59	
20	57	14

樺・美木多駅バス時刻表(2024.10.7)

津久野駅行きだけ明らかに本数が少ないですね…

署名集めてくれる方募集中

6/9(月)堺市議会での意見陳述を見ずえ、ひきつづき署名へのご協力をよろしくお願いいたします。

【問合せ先】桃山台の暮らしを考える会
090-1914-9462

平日 19～22時 土日 10～18時

※出られない場合もあります。お名前・ご用件を留守電メッセージに残して下さい。（ショートメッセージでもOKです）



閉会挨拶

巽照子さん（市民 1000 人委員会事務局）

今日は図書館というテーマで開催しました。どれだけの方々に集まっていたのか心配していましたが、66 名参加いただき、またいろんな声を聞かせていただけて感謝しています。

お忙しい中、堺市図書館協議会委員長の中川幾郎さんにはご講演を頂き、森山浩行衆議院議員、長谷川俊英市議、淵上猛志市議はご出席や質問へのご回答、ありがとうございました。

図書館は本だけでなく生活を豊かにするために映画や音楽、ゲームなどの多彩な文化にもつなげ、交流を育み、街をつくる文化的な場です。赤ちゃんからお年寄りまでいろんな人が交流が生まれ、市民の知を高め、民主主義を支える場でもあります。

インターネットを使っても情報が得られますが、公共図書館の社会的な役割は公共サービスを受けられる地域センターとしての存在です。高齢化、失業、不登校、孤立などの社会的課題と向き合い居場所としても期待されています。各グループに分かれて出していただいた意見を生かしきり、みなさんと一緒にこれからの時代を担う図書館を作っていけたらいいなあと思います。

本日うれしかったのは、図書館職員が 2 人参加してくれたことです。ありがとうございました。

呼びかけに応え多額の賛同金をお寄せ頂きました。
ありがとうございました。
おかげさまで、資金枯渇のおそれを脱却できました。

【1000 人委員会の輪を拡げて下さい】
ワンコイン 500 円で市政を変えよう
お知らせ、ご友人にお声をかけて下さい。
賛同人は 1130 人（4 月 30 日現在）です

みんなでつくろう ええまち堺 市民 1000 人委員会

【第 6 期会計決算報告】

自 2024/05/01 至 2025/03/31

〔収入の部〕	賛同金収入	952,600 円
	販売収入	16,400 円（『市政レポート』）
	寄付金収入	2,295 円
	会議収益	83,500 円（第 13 回学習会）
	収入の部合計	1,054,795 円
〔支出の部〕	会議・集会費	77,580 円（市政チェック学習会、事務局会議）
	通信費	441,065 円（『市政レポート』発送等）
	印刷費	503,121 円（『市政レポート』等）
	消耗品費	53,775 円（封筒、用紙等）
	広告宣伝費	4,104 円（ホームページ費用）
	支払手数料	1,485 円（口座徴収手数料等）
	支出の部合計	1,081,130 円
	〔当期収支差額〕	▲26,335 円
〔前期繰越金〕		472,011 円（第 5 期末：2024/4/30）
	〔残高〕	445,676 円（2025/4/30 現在）
（内訳）	現金	30,927 円
	郵便振替口座	335,600 円
	ゆうちょ通常貯金	124,689 円
	未払金	▲45,540 円／計 445,676 円

2025 年賛同金（一口 500 円）を、同封の郵便振替用紙等でお支払下さると幸いです。
もしくは、下記にお振込みください。

* 郵便振替口座：記号 00930-7-番号 325186

加入者名：市民 1000 人委員会 シミンセンニンイイソカイ

* ゆうちょ銀行・通常貯金 記号：14010 番号：69946591

加入者名：市民 1000 人委員会 シミンセンニンイイソカイ

他の金融機関から振り込む場合は、

【店名】ヨンゼロハチ（四〇八）【店番】408

【預金種目】普通預金【口座番号】6994659（7桁）



2025年6月発行

編集 市民1000人委員会

発行者 市民1000人委員会

〒590-0959

堺市堺区大町西三丁1番29-502号

TEL 072-229-6331

FAX 072-242-6315

Email Q Y D04504@nifty.com

<https://shimin1000.com/>



～ た た か う 市民 ～

振込先

◆郵便振替口座

加入者名：市民1000人委員会 シミンセンニンインカイ

記号：00930-7-325186

◆ゆうちょ銀行 通常貯金口座

加入者名：シミンセンニンインカイ

記号：14010 番号：69946591

※他の金融機関からの振り込みの場合は

店名：四〇八 ヨンゼロハチ

店番：408 種目：普通預金 口座番号：6994659

頒価 300円